

1. 研究活動

【雑誌記事連載】			
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」4月号 第50巻 第4号 通巻583号 pp.82～85	2012. 4. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第5回 第10番 “やさしい花”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」5月号 第50巻 第5号 通巻584号 pp.82～85	2012. 5. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第6回 第11番 “せきれい”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」6月号 第50巻 第6号 通巻585号 pp.82～85	2012. 6. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第7回 第16番 “小さななげき”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」7月号 第50巻 第7号 通巻586号 pp.82～85	2012. 7. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第8回 第6番 “前進”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」8月号 第50巻 第8号 通巻587号 pp.82～85	2012. 8. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第9回 第7番 “清い流れ”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」9月号 第50巻 第9号 通巻588号 pp.82～85	2012. 9. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第10回 第19番 “アヴェ・マリア”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」10月号 第50巻 第10号 通巻589号 pp.84～87	2012. 10. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第11回 第18番 “不安”
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」11月号 第50巻 第11号 通巻590号 pp.84～87	2012. 11. 1	(株) レッソンの友社	『ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎』 連載第12回 第8番 “優美”

【公開講座】			
「名曲のスタイル分析～ピアノ曲をつかって」	2012. 9. 10	ヤマハ名古屋店	古典派やロマン派のピアノ曲を中心に、有名な作品のスタイル分析（楽曲分析）を通して、より良い演奏や指導への活かし方をレクチャーした。
【コンクール審査】			
ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2012 神静本選審査員	2012. 12. 1・ 12. 2	横浜市泉区民センター テアトルフォンテ	予選に合格した参加者の、ステージ演奏を審査・講評した。
ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2012 近畿本選審査員	2012. 12. 8・ 12. 9	守口文化センター エナジーホール	予選に合格した参加者の、ステージ演奏を審査・講評した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 ソルフェージュ I、II		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。	フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいった方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。	
授業科目 楽式論（楽曲分析を含む）		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的にはポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリゼできるようにしている。	基本的な和声の復習から始まり、小品だけでなく、最終的には簡単な室内楽の楽曲の分析ができるように、パソコンのソフト（フィナーレ）で作成した独自の譜面を参考資料として用いるようにしている。またDVD等のメディアを用い、オリジナルの編成での楽曲にも親しむように工夫している。	
授業科目 キーボード・ハーモニー		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。	毎回の授業時に、CD、DVD等の機器を使用して、1つの楽曲を様々な編成で演奏したものを模範として聞かせている。古今東西の名曲を教材として使用することは、幅広い知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。	

3. 学会等および社会における主な活動

(社) 日本作曲家協議会	1978. 4～現在に至る	
文化経済学会	2000. 4～現在に至る	
日本ソルフェージュ研究協議会	2009. 4～現在に至る	
日本音楽表現学会	2012. 6～現在に至る	